

## 杏林医学会 第36回例会 開催報告

### Gender Matters: Blood Pressure Regulation in Women

(演者：Qi Fu, MD, PhD)

: Associate Professor of Internal Medicine, University of Texas  
Southwestern Medical Center, Director, Women's Heart Health  
Laboratory, Institute for Exercise and Environmental Medicine Texas  
Health Presbyterian Hospital Dallas)

杏林大学医学部総合医療学教室  
杏林大学保健学部理学療法学科

柴田茂貴

2019年3月28日、医学部基礎研究棟3階会議室において杏林医学会第36回例会が開催された。本例会では講師として、University of Texas Southwestern Medical Center (テキサス大学サウスウェスタンメディカルセンター) 内科学准教授であり、Institute for Exercise and Environmental Medicine (運動と環境医学研究所) のWomen's Heart Health研究室室長であるFu先生に“Gender Matters: Blood Pressure Regulation in Women”というタイトルで心血管系疾患の性差に関してFu先生自身の研究成果を含めて、最近の知見について講演していただいた。公演の要旨を以下に示す。

1. 成人後の女性の循環調節に関して、エストロゲンやプロゲステロンといった性ホルモンが影響すること、循環血液量と一回心拍出量が男性と比べて低いことが起立耐性に影響を与えることが示された。また若年女性に多い体位性頻脈症候群では循環血液量や一回心拍出量が更に低くなっ

ていることが示された。

2. 妊娠初期には交感神経活動の亢進が生じ、それは妊娠期間中に保たれ、出産後に妊娠前のレベルに戻ることが示された。妊娠中の交感神経活動の亢進には人種差があること、肥満のある妊婦では活動亢進がより大きいことが示された。妊娠高血圧症の患者ではそうでない人と比較して、妊娠期間だけでなく出産後も交感神経活動が亢進していることが示された。

3. 高齢女性の高血圧患者では高齢男性の高血圧患者と比べて交感神経活動と抹消血管抵抗がより高いことが示された。性差特異的な高血圧症の病態生理の違いの重要性が示された。

以上の様に講演内容は、成人後女性の循環調節に関して妊娠や加齢の影響も含む包括的な内容であった。講演後、多くの参加者から質問があり、価値ある議論が行われ幕を閉じた。